

第2回 琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会

第1回委員会における指摘 と対応について	<ol style="list-style-type: none">琵琶湖の価値について<ul style="list-style-type: none">琵琶湖の価値と指標とは結びつくものであり、そういった視点に基づく整理を行うことは重要である。
第2期計画の目標・指標の 設定について	<ol style="list-style-type: none">指標について<ul style="list-style-type: none">アウトプット指標とアウトカム指標に分類した整理は分かりやすく、評価できる。現時点のアウトプット指標とアウトカム指標だけで評価するのではなく、今後の調査・研究等から得られる新たな知見を反映していくことが重要である。施策、調査・研究について<ul style="list-style-type: none">アウトカム指標は現時点で目標水準の設定等が難しい項目が多く、今後施策と指標との関連性の把握も含めモニタリング等を実施していく必要がある。場を意識しすぎると縦割りのイメージが強くなるため、場毎の施策に加えて、例えば流域全体での総合的な施策が重要となる。水質汚濁メカニズム等の検討について、既往モデルについても整理していく必要がある。目標について<ul style="list-style-type: none">第2期計画目標の内容については、事務局案で良いと考える。将来的には、保全3分野を踏襲しそれぞれ進めていくべきかどうかは議論が必要であり、総合保全のために分野間の連携を推進していく必要がある。PDCA サイクルによる計画の見直しを実施していくことが重要である。NPO等の施策への参画・協働について<ul style="list-style-type: none">アンケート回答数が少ないため、今回の結果は全体の傾向を必ずしも表しているとは言えず、参考値として検討する必要がある。参画・協働の可能性の整理では、現在の活動状況に加えて、今後の可能性も含め整理する必要がある。